



文教住宅都市50周年 市民と共に歩む道

桜の下の小さなコンサート。芸術文化活動も盛んなまち



小学校連合体育大会。宮っ子たちの健やかな育ちに



豊かな環境を次世代に引き継いでいきます

今から50年前。本市は、豊かな自然と生活環境を守り、文教の振興を図るまちづくりを目指し、「文教住宅都市宣言」を行いました。さらに今年からは、平和非核都市宣言から30年。環境学習都市宣言から10年の節目の年を同時に迎えます。

9月16日には、三つの都市宣言合同記念事業として、県立芸術文化センターで音楽コンサートやシンポジウムを行いました。また、市内で積極的になちづくりに取り組んでいる皆さんへの感謝状を贈呈しました(6・7面参照)。

今後も市民の皆さんと共に誰かが住みたいと願う魅力あふれるまちづくりを進めていきます。問合せは政策推進課(0798・35・3427)へ。

市長からのメッセージ

先人達が築いたものを次世代に

今年には文教住宅都市宣言50周年という節目の年にあたります。これまでこの宣言の理念に基づき、良好な住環境を維持し、先進的な文化・教育の充実に尽力してこられた先人たちに深く敬意と感謝を表す次第です。

この宣言に基づくまちづくりを進めていくためには、社

会が平和であることや、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくことが必要です。平和非核都市宣言や環境学習都市宣言も文教住宅都市の理念に基づいたものです。

現在、本市では豊かな市民力により、文化の薫る活気あふれるまちづくりが進められており、「住みたいまち・

住み続けたいまち」として市内外から高く評価されています。

これからも三つの都市宣言の理念を胸に、市民の皆さんと手を取り合っ

て「ふるさと西宮」のより一層魅力あふれるまちづくりを進めていきます。

西宮市長
河野昌弘

的な価値を先取りしたものであるといえます。

独自の芸術・生活洋式 阪神間モダニズム

本市は、古くから門前町として栄え、西国街道と中国街道の交流地であることから、宿場町としても発展してきました。伝統産業である酒造りは全国的に知られるようになりました。

明治7年に国鉄西ノ宮駅ができ、同38年に阪神電車本線が、大正9年には阪急電車神戸線が開業し、大阪と神戸への交通が急速に発展しました。明治から大正にかけ、鉄



関西学院・神戸女学院などが移転

道各社による沿線開発が進みました。

風光明媚(び)、交通至便な住宅地として、大阪の実業家や芸術家、文化人といった富裕層が阪神間に移り住み、「阪神間モダニズム」と呼ばれる独自の芸術・文化・生活様式が築かれました。

昭和初期以降は、多くの私立学校が良好な教育環境を求めて移転してきました。文教都市、住宅都市の基礎は、この時代に作られたといえます。

その後、33年上ヶ原地区が、東京都の国立地区に続いて、全国で2番目の文教地区に指定されました。

文教住宅都市を宣言

高度経済成長のさなかの昭和30年代半ば、本市に西宮沖の埋め立てと石油コンビナートを誘致する計画が持ち上がりました。それまで築かれてきた住宅都市としての性格を継続するのか、工業のまちへ転換するのか、その賛否について、市を二分した大論争が繰り広げられました。

その結果、37年に誘致は中止となり、本市は工業化への道よりも環境との調和・共生を市民と共に選択。38年11月3日に、文教住宅都市宣言を行いました。

これは、今から半世紀前に環境の世紀といわれる21世紀

「高らかに文教住宅都市を宣言 住みやすい町へ」

市政の基本理念を示す



昭和38年11月10日号 西宮市政ニュース1面より掲載

昭和46年に策定した最初の「総合計画」から現在の「第4次総合計画」に至るまで、一貫して、「文教住宅都市」としての特徴を生かしたまちづくりを進めてきました。平成20年4月から中核市に移行し、文教住宅都市としての特性にさらに磨きをかけ、地方分権時代にふさわしい個性的で魅力あふれるまちづくりを展開しています。また、近年では大型商業施設や県立芸術文化センター、通年型スケートリンクがオープンするなど、新たなまちのにぎわいが生まれています。このような多彩な魅力が市内外から評価され、現在人口48万人を超える県下第3位の都市として成長を続けています。

三つの都市宣言の節目の年にあたり、これまでのまちづくりの成果を振り返るとともに、市民の皆さんと将来の西宮の在り方について、共に考えていきます。

県下第3位の都市に